

ごみのこと、 未来のために 考えたい



市民レポーター
**荒井さん一家が
歩く
ごみの現場**

ごみ問題は、新聞やテレビで報道されない日がないくらい日常的になっています。
何が大変なのか、何が問題なのか。
今回は郷部にお住まいの荒井さん一家に市内のごみの現場に行っていた市民の視点からレポートしてもらいました。ごみ集積所、清掃工場、リサイクル…いろいろな課題が見つかったようです。



管理が行き届いたごみ集積所が多くなったと話す岩澤さん

ごみ集積所から

ごみの分け方・出し方のルールを守って

各家庭から出されたごみが、市の処理施設などへ運び込まれる前に集められる場所が「ごみ集積所」です。

市内には全部で2,200カ所の集積所があるそうです。でも、ここへごみを出すにはいくつもの

決まりがあります。これについてとてもよく分かるのが、市から配布されている「ごみの分け方・出し方」。回収やリサイクルに関するルールが書かれています。

早速わが家にあるこのチラシを片手に、集積所へ向かいました。

だいたいルールは守られていますが、消火器や指定外の袋のごみなどが出されているところも。収集に来た作業員の岩澤秀輝さんにこのあたりを伺うと、「買い物袋のごみも目立ちますが、いろいろなごみを一つの袋に入れて出す人がよくいます。こんな場合、わたしたちがこれができるだけ分別し直して処理場に運ぶようにしています」。岩澤さんたちに申し訳ないと思いがから次の現場へ。

みなさん、ごみの分け方・出し方のルールを守ってくださいね。

いずみ清掃工場から

燃やしてしまつたんで もったいない

ごみ集積所などから集められたごみは、野毛平工業団地の奥にある、いずみ清掃工場とその隣のリサイクルプラザへ運び込まれます。いずみ清掃工場には、料理くず、紙くず、木くずなどの燃やせるごみが搬入されます。



クレーン操作室からごみ処理現場を見学

職員の恩田采治さんの案内で清掃工場の中へ。大きなクレーンがごみの山をつかんで焼却炉へ入っていました。よく見ると、「ビニールやプラスチックなど、燃やせるごみ」に分類されていないものが混じっています。

「ビニールなどは燃えることは燃えますが、高温を出すので炉が傷んでしまつんです。みなさんに分別をしっかりと願います。いいですね。」恩田さんの話に思わず恐縮。その時、ごみの中に本や新聞などを見つけた2人の豆リポーターたち、「紙はリサイクルできると聞いていたのに、燃やしてしまつたんでもったいないよ。」
ここでも、わたしたちがきちんと分別することで解決できる問題がありました。



ごみ特集

荒井さん一家（郷部在住）

お父さんの準人さんは市内の会社へ勤めるサラリーマン。お母さんの知子さんは専業主婦。ごみ出しはもっぱら知子さんの仕事です。長男の雄太くと長女の真尋ちゃんはまだ幼稚園生。ということで、今日の主任レポーターは知子さんが務めることになりました。



ベルトコンベアーの前でごみも立派な資源と語る萩原さん

リサイクルプラザから
「ごみもちゃんと
分別すれば、立派な
資源なんです」

「ごみ集積所にあった、赤い袋と黄色い袋は、リサイクルプラザへ搬入されます。赤はビン・カン・ガラス、黄色は金物・陶磁器などです。これらの資源ごみがどのようリサイクルされるのか、工場長の萩原正義さんに現場を案内してもらいました。」

プラザの2階では、ベルトコンベアーで運ばれてくる資源ごみが手作業で分けられています。

「ごみもちゃんと分別すれば、立派な資源なんです」という説明に一同納得。「危ない！」と萩原さん、ごみの中から劇薬の入ったビンを取り出しました。割れるとやけどやけがをすることがあるとのこと。みなさん危険物は絶対出さないでください。

修理して使えるものは直して使ってほしいですね

「リサイクルプラザ」萩原さんに

わたしたちも ごみの減量に協力しています

新山小学校リサイクル委員会

社会科でごみについて学び、“捨てればただのごみ、再生すれば生活に役立つ物になる”ことを知ったのをきっかけに、3年前に設立されたりサイクル委員会。

5・6年生10人のメンバーは、毎週水曜日に、不用品を使ったハンガー作り、牛乳パックを利用した工作など、資源のリサイクルに取り組んでいます。6月と12月には全校をあげてのリサイクル週間もあり、子どもも大人もごみを減らそうという意識が高まっています。

「1人が1つのペットボトルをもってきても、全校なら300以上も集まります。ほんの少しの心掛けで、町は美しくなり、資源の大切さも広がります。これからもリサイクルできるものはこまめにしていきたいと思います」と委員長の高木瞳さん（6年）が話してくれました。



リサイクル週間ではトラック3台分の資源ごみが集まりました

次に案内されたのが不用品再生棟です。入ってすぐ目にしたのが、

家具や自転車。これが不用品で出されたものと知りびっくり。ビン・カンなどの資源ごみは形を変えて再利用されますが、ここでは使えるものを修理して再び使えるようにしています。格安で販売しているそうです。

ブレーキが壊れて乗らなくなった自転車を、「ここへ持ってこようかと、相談するわが家の横で、」ここへ持ち込み、再利用するのことも大事ですが、修理して使えるものは、直して大切に使うってほしいですね」と萩原さん。またまた恐縮する「同じく、」ごみを出さないようにすることが一番のごみ対策」と話してくれました。



新たな所有者を待つ自転車や家具

荒井家の ごみ減量化 作戦

わたしたちの生活から出るさまざまなごみ。それらのごみを資源として再利用するにはきちんと分別することが大切だと分かりました。でも、出たごみをどうにかするより出さないようにすることが一番です。どんな方法があるのか、みなさんも荒井家と一っしょに考えてみてください。



専用かご持参の芦澤りつ子さん（郷部）
「少しでもごみを減らせればと思い専用かごを使っています。もっとたくさんの方が自分のかごや袋で買い物をするようになるといいですね」

家庭から出るごみを減らすには、ものを買うときの工夫が必要。そこで、わが家のごみ減量化作戦を、実際の買い物で実行してみようと市内のスーパー・食料品売り場へ出掛けました。

まずは“買い物”から
一工夫



まず、買い物前に、家から持ってきたペットボトルを回収器へ。野菜などはラップのかかっていないものを中心に、シャンプーは詰め替え用のものを購入。もちろんレジの済んだ商品は持参した袋へ入れました。

レジで色の違うかごを持った人を見かけ、話を伺つと個人専用のかごのこと。よく見るとあちらこちらで専用かごや袋を持った人が買い物をしていました。

販売者のみなさんもがんばっています

買い物をして感じたことは、わたしたち以上に、売る側もごみ減



トウモロコシの皮を店内でむいていく人が増えたと話す岡澤さん。ごみ箱は皮でいっぱいでした

量に真刻に取り組んでいるということ。食料品販売課長の岡澤良信さんにたずねたところ、ペットボトル、トレイ、牛乳パックの回収はもち

ライフスタイルの見直しで、ごみを大幅減！

- 作戦 1** 保存などにはラップを使用しないで、密閉式の容器を利用する。
- ② 詰め替えのできる商品を買う。
 - ③ 買い物には、袋やかごを持参する。
 - ④ 使い捨ての商品を買わない。
 - ⑤ 包装は、最低限にしよう。
 - ⑥ 食品はできるだけ量り売りのものを買う。
 - ⑦ 生ごみは、コンポストや生ごみ処理機で処理をする。

みなさんのご家庭ではいくつ実行していますか？



ごみ特集

コーナーのごみは
水を切ってから

ごみの減量はみんな
の協力で



ごみを減量できても、まったく
出さなくすることはできません。

捨てるときにも 一工夫

「工夫した取り組みも、お客さん
が店を選ぶ基準になってきたと語
る岡澤さん。これからも新しいご
み減量作戦を考えてもらいたいで
すね。」

ろん、個人専用かご・袋の奨励
詰め替え商品の販売、包装の簡素
化など会社全体で環境問題に取り
組んでいるそうです。また、売り
場から出る生ごみを自家用のごみ
処理機でたい肥にするということ
もしているとのこと。

でも、生ごみを「燃やせるごみ」
として出すとき、その水分を切る
だけで、相当なごみの減量化につ
ながるそうです。
家庭でちょっと手間をかけるだ
けでできることです。から、みなさ
んもぜひやって見てください。

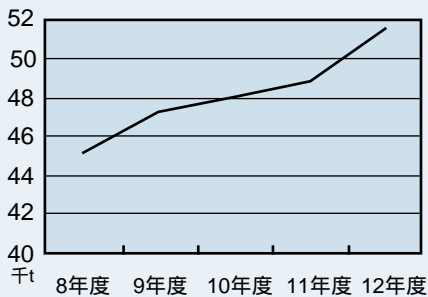
一人ひとりの 心掛けが大切

いろいろな現場を見て感じたこ
とは、わたしたちがほんの少し環
境問題への関心を深め実行するだ
けで、ごみも減らせるし、そこで
働く人たちの負担も少なくできる
ということ。

ごみ問題を解決するためには、
わたしたち一人ひとりの心掛けが
大切なんです。

特集およびごみの現状などに
ついてくわしくはクリーン推進課
(☎20 1530)へ。

ごみ総量の増加



リサイクルプラザ(手前2棟)と
いずみ清掃工場(写真奥)

成田市のごみの現状

家庭や事業所から年間 5万トンを超えるごみが

市内の家庭や事業所から出
されるごみの量は、年々増え
続けています。(グラフ参照)
平成12年度に市が処理した
ごみの量は5万1,491tで、前
年度に比べ2,637t(5.4%)増
加しました。これを市民1人
当たりになると、毎日1,452g
のごみを出している計算にな
ります。

そして、これらのごみを処
理するために、年間15億1,428
万円(1人当たり1万5,580円)
の経費がかかっています。

いずみ清掃工場で ダイオキシン類対策工事

ことし7月から来年の9月ま
で、いずみ清掃工場では、排
ガス高度処理施設整備(ダイオ
キシン対策)工事が実施されて
いるため、ごみの焼却能力が
通常の半分程度に減少してい
ます。その間、近隣の市町村
の焼却施設(印西クリーンセン
ター、酒々井リサイクル文化
センター)の支援を受けたり、
民間に委託して処理をするこ
とにしていますが、市民のみ
なさんも一層のごみの減量に
ご協力をお願いします。